

2月定例会号

目次

わかやま 市議会 だより

- ・特集 命をつなぐ アップサイクル P2
- ・2月定例会の概要 P4
- ・令和8年度当初予算 P5
- ・代表質問 P6
- ・一般質問 P10
- ・委員会審査の概要 P12
- ・採決状況 P14
- ・市議会からのお知らせ P16

No.121 令和8年(2026年)5月1日発行

自然と生きる



特集vol.33

命をつなぐ

アツプサイクル



和歌山市では野生動物による農作物などの被害が深刻な地域課題となっています。そのよ
うな中、女性ハンターたちが立ち上げた「一般
社団法人女性狩猟会里山アツプサイクル」は、
狩猟とものづくりを通じて学びと循環を生み
出す取組を進めています。今回は、里山の未
来を守る彼女たちの挑戦取材しました。

里山と人を結ぶ活動の原点

命や地域資源を生かし、学
びにつなげる場を作りたい—
—その思いを形にするため、
令和6年10月17日、一般社団
法人女性狩猟会里山アツプサ
イクルは誕生しました。

代表理事の溝部名緒子さ
んは、幼い頃から生き物に強
く引かれ、夢中で観察しな



わな猟の様子

がら「どうすればもっと上手
に捕まえられるだろう」と
工夫を重ねてきました。小
さな命と向き合う中で、安全
への意識や命への敬意などを
自然と学んでいたそうです。

そして、大きな転機となっ
たのが自身の出産です。授
乳だけで赤ちゃんがすくす
く育っていく姿を見守る中で、
「人の体は食べた物からでき
ている」という当たり前のこ
とを、改めて心の底から理解
できたといいます。

さらに、ある日イノシシの
肉を口にした際に体が芯から

温まったことで、自然の恵み
の力を実感。それらの気付き
がきっかけとなり、溝部さん
は狩猟免許を取得しました。
里山アツプサイクルの活動
は、「里山を整える」「命を
活かす」「学びを広げる」の
三本柱です。

「まずは、どう共に暮らす
かを考えることが大切。そ
の上で、捕獲が必要とき
は適切に引き合い、命に敬意
を払って学びと循環につなげ
ることが私たちの姿勢です」
と、溝部さんは話します。

その言葉には、里山と人
の関係をよりよい形へ導こう
とする思いが込められてい
ました。

一般社団法人
女性狩猟会里山アツプサイクル
代表理事 溝部 名緒子さん

学校での出前講座の様子

皮の加工の様子

女性狩猟会
里山アツプサイクル



狩猟の流れ



準備

狩猟免許には、網猟、わな猟、第一種銃猟、第二種銃猟の4種類があり、獲物に合わせて取得します。銃の所持には、所持許可も必要です。



入山

捕獲可能な場所かどうか、鳥獣保護区が記載された地図で念入りに確認します。場所が決まると、足音を抑えて静かに進みます。



狩猟

鳥獣の痕跡や落ち葉の音、人の気配にも神経を研ぎ澄ませ獲物を探します。自然との駆け引きが続くこの場面は、緊張感が最も高まります。



アップサイクル

捕獲後は、化粧筆やジビエ料理などにアップサイクル。これらは、子供たちが地域の自然を学ぶ教材としての役割も果たしています。



ジビエ料理

線が少しずつ整っていく——
 入ることで、山と里との境界線が少しずつ整っていく——
 搬出した竹は、防災にも役立つ竹の飯ごうとして、イベントで活用されています。また、捕獲した野生動物も、皮小物や化粧筆、ジビエ料理などへのアップサイクルが進められ、未来を担う子供たちへの出前講座の教材としても役立てています。



化粧筆、皮小物

里山を守り、命と資源を生かす取組

里山アップサイクルでは、竹の間伐や道作りを進め、人が入りやすい里山を取り戻そうとしています。人の手が入ることで、山と里との境界

その変化は、鳥獣被害や地域住民の不安を減らす土台づくりにつながっているそうです。

「五感で自然を感じることで、知識が自分の中で知恵やひらめきに変わっていくきっかけを作りたい」と語る溝部さんからは、子供たちが地域の自然と共に育ってほしいという願いが感じられました。

編集後記



女性ハンターの活動を取材させていただきました。普段使っている道路をほんの少し入った所に、息をのむほど美しい自然と動物たちの世界が広がっていることを初めて知りました。アリヤたこなど身近な生き物の生態やトリビア話は、面白いだけでなく野生動物への関心が一気に高まり、命と自然への見方まで変わりました。

特集担当: 志賀 弘明、堀 登美子、坂口 多美子

鳥獣被害は、本市に限らず全国的に共通する深刻な問題となっています。その背景には、森林伐採や都市開発、里山の維持管理、温暖化や気候変動、餌付けやごみの放置、近年では空き家や耕作放棄地の増加など、複数の課題が絡み合っているといわれています。

そのような中、里山を整備する溝部さんたちの活動は、自然環境を守り、野生動物と共生するための重要な取組の一つとなっています。和歌山市議会としましては、このような活動を後押しするとともに、本市自慢の豊かな自然を未来の子供たちにつなげていくためにも、様々な分野にまたがる課題の解決に向け、市行政と連携し、横断的な議論をより一層深めてまいります。



理事 小倉 充子さん(写真右)

共生する未来へ——次世代につなぐビジョン

2月定例会の概要

開
会

2月19日

- ・会期の決定(2月19日～3月13日)
- ・議案説明(報告関係5件、承認関係1件、議案32件(補正予算案20件、条例案1件、繰越明許費に関する補正予算案6件、その他5件))
- ・議案に対する質疑(森下議員)
- ・議案の委員会付託

2月20日～24日

- ・総務委員会、厚生委員会、経済文教委員会、建設企業委員会で議案について、審査、討論及び採決

2月26日

- ・各常任委員会の委員長報告
- ・反対討論(坂口議員)、採決
- ・議案説明(議案30件(当初予算案17件、条例案12件、その他1件))

代
表
質
問

3月2日

各会派の代表者による代表質問

- ・浜田真輔議員、藪 浩昭議員、川端康史議員、吉本昌純議員、森下佐知子議員、山野麻衣子議員(P6～P10に概要掲載)

一
般
質
問
等

3月3日

- ・坂口多美子議員、南畑幸代議員、松本哲郎議員

3月4日

- ・古川祐典議員

(P10～P11に概要掲載)

- ・議案に対する質疑(森下議員)

- ・議案の委員会付託

常
任
委
員
会

3月5日～10日

- ・総務委員会、厚生委員会、経済文教委員会、建設企業委員会で議案について審査

3月11日

- ・総務委員会で議案について審査
- ・各常任委員会で議案について、討論及び採決(P12～P13に概要掲載)

閉
会

3月13日

- ・各常任委員会の委員長報告、組替え動議
- ・反対討論(南畑議員)、採決
- ・議員発議(市長専決処分事項の指定1件、意見書案2件)、採決

令和7年度予算(2月補正後)

一般会計	1,810億7,306万6千円 (補正額145億7,143万8千円)
特別会計及び 公営企業会計	1,435億927万4千円 (補正額33億8,495万1千円)
合計	3,245億8,234万円

補正予算の概要

一般会計では、物価高騰対応子育て支援事業、物価高騰対応園児等給食費支援事業、小学校施設整備事業、小学校体育館空調整備事業、未来のまちづくり基金積立事業に要する経費、各事業における事業費の決定や精算等による予算などが計上されました。

特別会計(公営企業会計を含む)では、各会計で事業費の決定や精算等による予算などが計上されました。これらの補正予算案は慎重審査の結果、可決されました。

わかのすけの市議会ガイド!!

委員会
ってなに?



委員会とは

議会で決める必要があることについて、本会議で決定する前に、効率的・専門的に審査するための機関です。和歌山市議会の場合、4つの常任委員会(総務委員会、厚生委員会、経済文教委員会、建設企業委員会)、議会運営委員会があります。また、「わかやま市議会だより」等の議会広報を発信する機関として、広報委員会があります。

和歌山市議会公式
マスコットキャラクター
「わかのすけ」



次の定例会は、
6月です!

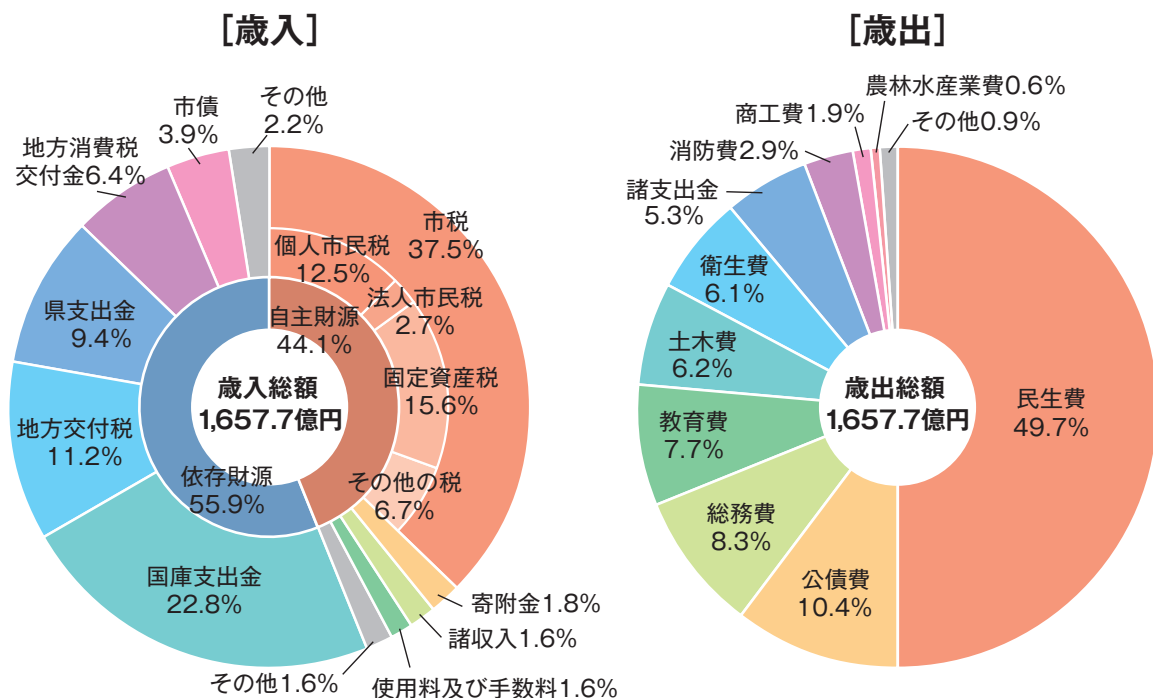
和歌山市議会では、本会議場にモニターを設置し、会議の進行状況等が分かりやすくなりました。また、傍聴の手続きも簡素化したので、お気軽にお越しください。

生中継・録画
中継がご覧
いただけます。



令和8年度当初予算

一般会計



特別会計

960.3億円

公営企業会計

483.5億円

予算合計

3,101.5億円

暮らしに寄り添いながら未来への歩みを進める予算



1 ふるさとで学び働けるまち

- ▶ 産業を支える人材の育成
- ▶ 強い農水産業づくり
- ▶ 「絶景の宝庫 和歌の浦」の新価値創出
- ▶ 歴史を生かしたプロモーション
- ▶ 移住・プロモーションの推進
- ▶ 学生とともにつくるまち



など

2 県都として活力にあふれたまち

- ▶ 市駅周辺をまちの居場所に
- ▶ 和歌山城の更なる魅力向上
- ▶ 歩きたくなるまちなかの整備
- ▶ 地域で結ぶ豊かな暮らし
- ▶ 文化芸術の継承と発展
- ▶ スポーツへの参加促進・環境の充実



など

3 子供たちがいきいきと育つまち

- ▶ 子育て世帯への経済的支援の充実
- ▶ 切れ目のない包括的支援
- ▶ 仕事と子育ての両立支援の強化
- ▶ 多様な学びの場と安心して過ごせる居場所づくり
- ▶ 社会を生き抜く確かな学力の育成
- ▶ 健やかな体を育む学校給食・食育の充実



など

4 誰もが安心して暮らせる優しいまち

- ▶ 事前防災の徹底
- ▶ 污水整備の取組
- ▶ 消防力の向上
- ▶ 人生100年時代に向けた健康づくり
- ▶ 複合的な課題に対応する重層的支援
- ▶ スマートシティの推進



など

代表質問

各会派の代表者による質問内容の一部を抜粋して掲載しています。



録画中継をご覧いただけます。

※各会派のスペースは、会派の所属議員数によりその大きさが異なります。

創和クラブ



はまた しんすけ
浜田 真輔

少子化対策と子育て支援

問 日本では出生数が減少続きで、令和6年には全国で初めて70万人を割り、約68万人まで減った。

和歌山市でも例外ではなく、出生数は全国平均を上回っているが、令和6年の出生数は2003人と、10年前の平成26年から約1000人近く減少している。

少子化問題は、健康保険・年金介護などの社会保障の問題、労働力・生産力購買

力などの経済的な問題、全国において国や地方の形を変えてしまう大きな問題である。また、若い人たちが、生まれてくる子供たちに重い負担を背負わせる深刻な問題でもある。

この問題解決に向けた公約や政策の中心は、子育て支援であった。しかし、子育て支援策が国や全国各地で数多く打ち出されたにもかかわらず、合計特殊出生率も出生率も大幅な下降線を描き続けている。

今行われている子育て政策は、国においては給付型が中心であり、地方自治体でも主なものは給付型で、各自自治体の子育て支援のサービスクラスが過熱しているように見えて仕方がない。

子育て支援を否定するものではないが、今一度立ち止まって子育て政策を見直し、効果を検証して、理想的な政策の姿に近付けることを始めてみるべきときに来ていると考える。

各種の子育て政策を改めて見直して、まず効果や成果を検証するつもりはあるか。また、目指すべき今後

の子育て政策の在り方や所見はどうか。



答 これまでも結婚して新しい生活を送る方を応援する

「結婚新生活支援事業」など、様々な子育て政策を実施しており、支援を必要としている方へ、子供医療費無償化などの経済的支援を始め、子育てに関する相談支援や待機児童対策などの子育て、健康、教育に関する支援を行ってきた。

本市においても、出生数が減少していることから、子育て政策の効果や成果を検証していく必要があると考えている。

今後は、経済的支援だけではなく、本市で出産・子育てをしたいと思ってもらえるような子育ての環境づくり

に、より一層取り組み、結婚期から妊娠、出産、子育て期まで切れ目のない支援を充実させ、若者や子育て世代から「子育てしたいまち」として選ばれるよう取り組んでいく。

市長の政治姿勢

問 市長は、平成26年に初当選され、現在3期12年途中である。令和6年に自らがんの告知をされ、闘病生活を続けながらも、一意専心、今日まで職務にまい進されてきた。

そして、今年1月20日からがんと異なる病気のため療養後、公務に復帰され今日を迎えている。

その療養期間中に実施された衆議院議員選挙の中で、療養中であること、がんであること、年内に市長選があることなどがあいまって、

重病説や病状の問合せ、市長の進退に至るまで、市政に関心を寄せる多くの方々から問合せがあった。

興味本位であったり、病状を純粋に心配されているのであったり、人の思いは様々だが、これも和歌山市

長という唯一無二の立場に起こる、避けて通れない試練であるかもしれない。

私人としてではなく、公人として、市中の雑音を消し去るためにも、市長の複雑な心の整理を明確な言葉にすることが、市民に対する誠意だと考える。

市長は、4期目の市政をどう考えるか。

答 これまで、衰退を止め元気な和歌山市にしたいとの思いで、将来的な目標を掲げ実行してきた。

まちなかへの大学誘致をはじめ、都市戦略としての市民図書館、和歌山城ホール建設などのまちづくり、高校卒業までの子供医療費無償化、学校給食費の無償化などの子育て支援や福祉の充実を進めてきた。

こうした中、行政のまちづくりと呼応する形で、和歌山市を元気なまちにしようという市民の皆様の活動が活発になってきた。

これもひとえに、市民の皆様との和歌山市への思いや温かいご支援、議会の皆様のご協力、そして職員の努力によるものであり、心から感

謝を申し上げる。
 今後の人口減少下での課題は多くあるが、自身としては、公約してきたことは全力でやれてきたとの思いと、市民の皆様にご心配をお掛けしているすい臓がんのことなども考え、次期市長選には出馬せず、3期限りで退任したいと考える。

外国人政策

問 衆議院議員選挙の争点の一つに外国人問題が取り上げられ、いろいろな議論がなされた。SNSの世界に目を移すと、外国人による生活保護制度の悪用、健康保険制度の未払いや悪用、外国人による不動産取得及び買占めや、治安の悪化なども頻りに登場する。

昨年訪日外国人数は、年間で約4298万人と、過去最高を記録した。在留外国人は、2025年6月末時点で395万人と、こちらも過去最高を更新した。

本市も観光、就労とも外国人は増加傾向にある。本市の国民健康保険の外国人加入者、外国人の生活保護受給、固定資産税、都市計

画税の賦課状況について、特段の問題は生じていないとのことである。

誤った情報などで、誤解、対立、治安の混乱、ヘイトなどを生み出さないためにも、市民に対して正しい情報を伝えることも市行政の役目だと考える。

市民の間に無用な混乱、対話を無視した一方的な批判、勘違いによる被害妄想などを起こさないためにも、行政から正確な情報を発信していただきたいと思う。外国人に関することについて、市民を不安にさせない、正しい情報を積極的に発信する考えはあるか。



答 我が国では人口減少や少子高齢化に伴い、生産年齢人口が減少し、外国人労働者の重要性が高まり、増加している。本市においても、同様に在留外国人は増加している。

このような現状においては、日本人と外国人が互いを理解し尊重し合うことが大切であり、そのためには、事実に基づいた情報を分かりやすく伝えることが重要であると考えている。

今後も、在留外国人の状況を適確に把握し、ホームページ、SNS等を活用し、在留外国人の方に自国の文化や風習を紹介してもらうなど、国際理解を深めるための情報発信を行っていく。

公明党議員団



本市の将来像

問 市長は、3期12年にわたる現職時代に、率先垂範の行動で数々の実績を積み重ねてこられ、和歌山市民の福祉の増進に大きく寄与

されたと実感している。実績の中で主なものを紹介すると、5大学の誘致、公共施設の再整備、道路網の整備、子育て支援の充実、財政の健全化だと考える。これらの実績はトップセールスで各省庁及び国会への積極的な陳情など、リーダーシップを遺憾なく発揮された賜物だと敬意を表する。



令和8年度予算要望を市長に提出

答 人口が減少していく中でも、経済が成長し続け、住環境や福祉が充実し、将来にわたり市民一人ひとりが幸福を実感するとともに、住みたい、住み続けたいと選ばれるまちである。その

ため、継続交渉中の企業誘致や、更なるまちづくり、DXや脱炭素社会の推進など、一層の発展に向けて全力で取り組んでいく。

若者の定住促進と人材確保

問 奨学金は、進学を支える重要な制度である一方、長期の返済が負担となり、結婚や出産、そして給与の低い企業へと県外に転出してしまふなど本市の定住にも大きな影響を与えているのではないか。

本市は、平成29年度から「奨学金の返還助成制度」を開始、参画企業は、人材不足の分野で、医療、福祉、介護系の企業など、専門的職種に限定している。応募人数は、令和7年まで合計43名の応募があり、助成実績は5名である。この実績からみれば、若者定住策としては厳しい数字ではないかと考える。原因は、制度の認知度が低く参画企業の職種が少ないことなどが考えられる。

本市の奨学金の返還助成制度の現在までの利用状況に対する認識はどうか。ま

た、業種が限られているため、幅広く考えるべきだと指摘に対して、どのように取り組んできたのか。

答 本市の奨学金返還助成制度は、十分に活用されている状況とは言えないと認識している。

更なる業種の拡充について検討した結果、対象となる業種及び奨学金の種類を拡充をはじめとした、制度の充実を図ることとした。



問 他都市では、人手不足で悩む中小企業への有効な施策として、既卒者を対象に加えている。制度開始前から奨学金を返済している既卒者に対しても支援が必要であると思うが今後どのように取り組んでいくのか。
答 拡充した新しい制度の運

用状況を踏まえ、本制度がより多くの若者の定住促進及び人材確保に資する効果的かつ持続可能な制度となるよう、引き続き改善を図っていく。

安心安全なまちづくり施策

問 昨年の12月定例会において、精神障害者の重度心身障害児者医療費助成制度の拡充について、和歌山県精神障害者家族会「つばさの会」の方から請願が提出され可決された。国と県への要望で終わることなく、一歩前に進め、安心な医療支援を届けるべきと考える。

この請願書に懸ける家族会の皆さんの思いをどのように受け止めているか。また、一歩でも前に進めたいとの思いに寄り添ってあげることができているのか。

答 請願書はご家族の苦勞と親なき後の子供たちのための切実な思いが込められたものと認識している。

そのため、非課税世帯や重複障害者に対する助成制度の拡充についても本市として検討し、協議を進める。

民主クラブ



かわばた やすふみ
川端 康史

小型充電式電池の回収

問 近年、ごみ収集車やごみ処理施設において、リチウムイオン電池などが原因と考えられる火災事故が発生し、全国的にも問題となっている。本市でも実際に火災事故が発生しているが、リチウムイオン電池などの小型充電式電池の分別回収や、市民への正しいごみの出し方など、どのような広報をしているのか。

答 年2回の小型家電地区回収と、青岸ストックヤードや収集センター北事務所・西事務所まで持ち込んでいただく方法がある。

広報については、小型充電式電池は、過度な圧力や衝撃により、発熱・発火する危険性があることから、一般ごみに入れないよう注意喚起を記載したチラシを作成し、自治会回覧で周知す

るとともに、市ホームページやごみ情報サイトのリリクルネットにも掲載し広く周知を図っている。

問 ごみ処理施設において、小型充電式電池内蔵の家電製品などによる火災を未然に防ぐために、どのような対策を取っているか。

答 持ち込まれた粗大ごみの中から、職員が手選別で小型充電式電池を取り除いている。また、ごみを貯留するごみピットの火災対策として、赤外線カメラによる発火監視装置と初期消火用の放水銃を設置している。

問 今後もしリチウムイオン電池の需要は増加すると考えられ、安全かつ適正な処理のために、今後の回収方法はどのように検討しているか。

答 排出の機会を増やすことや、お住まいの近くに排出拠点を設けることで、市民の利便性や回収作業・処理作業の安全性向上につながると考えるため、関係部局と連携し取組を進める。

ごみ処理施設整備基本計画

問 次期ごみ処理施設の稼

働時期が令和15年度からとされているが、現時点で稼働時期が変更になることはないか。



視察先の町田市バイオエネルギーセンターの建築模型

答 令和6年度に、「ごみ処理施設整備基本計画」を策定した。令和7年度から基本設計等の業務委託を結び、受注者による測量や各種調査が行われており、現在、令和15年度中に施設の稼働ができるよう事業を進めている。

安心して子育てができる環境整備の充実

問 昨年11月に厚生委員会において、山梨県甲府市の子供屋内運動遊び場への視察を行った。この施設は、山梨大学の研究知見と世界的に遊具開発を行うポーネ

ルンドの遊び環境づくりのノウハウを融合した、全国的にも珍しい産学官連携の施設で、人間の動きの基礎となる行動を、遊ぶ中で自然と身に付くようにデザインされている。

市長は、施政方針において子供たちが生き生きと育つまちを掲げ、「子育て環境日本二の実現を目指して取り組んでいるが、今後、本市でも市内外から研究教育・地域スポーツ・子育て支援が結びついた先進的な子供の遊びと成長の拠点として、屋内運動遊び場が必要と考えるがどうか。



甲府市ヴァンフォーレおしろらんど

答 屋内運動遊び場は、天候に左右されず、雨の日も快適に遊べることで、また、暑い時期でも熱中症の心配が

なく体を動かせることなど、年間を通し安定して利用できる施設で、必要な施設と考えており、更に検討を進めていく。

和歌山興志クラブ



よしもと まさずみ
吉本 昌純

企業誘致 地元企業の支援

問 奨励金制度は先行投資という意味からも、どこの自治体にも負けない独自性のある条件を提示し、取り組む必要があると思う。

答 本市の奨励金制度は他市に比べて十分か。今までの実績、現状認識はどうか。また、市長は今後GX関連企業等の企業誘致を進めると、方針を示されたが、これからどう取り組むのか。

答 本市の企業立地促進奨励金制度は、最大18億9千万円で、他都市と比べてもトップクラスとなっている。実績は令和7年度まで、109件となっております。企業

立地フェアへの出展などの取組を行った成果であると捉えている。GX関連企業等については、コスモパーク加太や西防波堤沖埋立地への進出と集積を図るべく、準備を進めていく。



問 本市の地場産業の振興・飛躍発展も大変重要で唯一無二の地場産業の振興に取り組まなければならないと考えるが、市の認識と現在の取組状況はどうか。

答 地場産業は、地域の雇用と経済を支える重要な基盤であると認識している。現在、木工、繊維、皮革、化学等の地場産業の技術向上に要する費用や、販路開拓を目的とした展示会等への出展に要する費用を支援している。

シティプロモーション

問 本市には、市民にとっては日常でも、実は大変価値の高い地域資源が数多く存在している。和歌山市ならではの資源を充分活用し、独自性のあるシティプロモーションを確立すべきと考えるが、市民も含め地域の魅力をまだ十分に認識されていない層に対して、今後、どのように展開されるのか。

答 本市の魅力を「暮らしの豊かさ」という視点で再定義し、デジタル媒体やデータ分析を活用する継続的な発信、統一コンセプトの確立などに取り組んでいるところであり、今後はさらに強化したいと考えている。

日本共産党議員団



もりした さちこ
森下 佐知子

物価高騰対策

問 長引く物価高騰の中で

疲弊する市民や事業者に対し、医療や介護を含め、廃業を防ぐための直接支援が必要だと考えるがどうか。

答 市民や事業者への支援は極めて重要である。融資への利子補給や相談、医療や介護へは国・県の必要な情報を的確に周知する。

保育行政

問 少子化の中でも待機児童が後を絶たない中、「こども誰でも通園制度」の本格実施など、ますます保育士不足が懸念される。市はどのような対策を講じるのか。

答 現在、1歳児を中心に、待機児童が発生しているのは保育士不足が要因であり、処遇改善加算の活用、代替保育士の雇上げ、潜在保育士の就労支援などに取り組んでいる。今後も国の施策と連携し本市独自の支援を拡充して人材確保に努める。

人事行政

問 公務労働の担い手としての市職員が果たす役割を鑑み、スクールカウンセラー、学校司書、管理栄養士など、国家資格や県の資

格取得者である専門家に
いては、役割の大きさから
も、正規職として登用する
べきだと考えるがどうか。
答 職員は全体の奉仕者とし
て公共の利益のために勤務
する立場にある。専門職につ
いては業務内容、継続性等
を総合的に勘案し、正規職
員や会計年度任用職員など
の制度を活用していく。

日本維新の会



やまの まいこ
山野 麻衣子

市長の政治姿勢

問 本市は中心市街地の再
生、大学誘致、さらには企
業誘致等に、極めて多額の
公費を投じてきた。しか
し、市内大学生全体の約6
割が、学び舎を後にすると
同時に本市をも去っていく。

魅力ある就業機会の創出
や、若者が選びたくなる雇
用の質の確保について、今
後の展望はどうか。

答 魅力ある市内企業との

マッチングを推進すると
もに、若者に人気が高いI
T関連や成長産業であるC
X関連企業の誘致に積極的
に取り組み、若者が希望す
る仕事に就き、生き生きと
働くことができる環境づく
りを進めていく。

問 令和8年度予算は、市
民に寄り添う温かな編成で
あるかのように聞こえるが、
財源には限りがあり、行政
に求められるのは網羅では
なく、未来を見据えた決断
であると考えます。

市長は、新年度予算で特
に重点を置いた分野はどこ
か。また、和歌山市をどの
ようなまちへ導こうとして
いるのか、将来像はどうか。

答 地方創生の歩みを着実に
未来へ進めつつ、物価高騰対
策など「市民の暮らしに寄り
添う施策」を重点化した。私
が目指す将来像は、将来に
わたって全ての人が幸福を実
感し、住みたい、住み続け
たいと選ばれるまちの実現
である。安定財源を確保し、
「成長と福祉の好循環」を確
かなものとするのが不可欠
であると信じ、今後も取り
組んでいく。

代表質問及び
一般質問の会
派スペースを
合算し、質問
項目の概要を
掲載する場合
があります。

一般質問



一般質問の概要では、多数ある質問項目の中から、特に市民の皆様へお届けする内容をピックアップした上で掲載しています。



録画中継をご覧いただけます。

※各会派のスペースは、会派の所属議員数によりその大きさが異なります。

創和クラブ



ふるかわ まさのり
古川 祐典

重層的支援体制整備事業

問 一人ひとりが社会とのつ

ながりを持つことで魅力あ
るまちとするため協創し、
支え手も受け手も課題解決
を実感できる体制にしてい
ただきたい。

福祉行政において、重層
事業費はこれまで25億98万
1千円が投入されてきた。

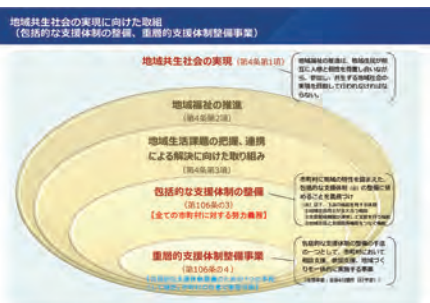
対応の主体は、あくまで
各分野の相談機関であるが、
一つの機関に押し付けること
なく、各分野の相談機関や
専門職の対応力向上、加え
て、垣根をなくしてしま
うと現場が混乱に陥るだけ
一定の組織的区分は不可欠
あり、ひとまとめにはしな
い。最終的には、多機関協
働事業者が担うべき守備範
囲の縮小、個々の分野の対
応力強化、包括的に支援機
関をつなぐ体制の整備、社
会的支援の強化である。

介護、障害、子供、生活
困窮分野において複合的な
問題、事例は少なくない。
孤立、虐待、困窮の問題
等、世代に関係なく共通し
て起こっている問題であり、
その一つに高次脳機能障害
がある。交通事故や頭部の
けが、脳梗塞・脳腫瘍など
様々な原因で脳にダメージ

を受けたことで生活に支障
を来す症状である。症状も
様々で病院治療を終えても、
家庭生活、職場復帰が難し
かったり、身体障害のない
場合は外見からも分かりづ
らい。日常生活において、
周囲からの理解も得られに
くく、「迷惑な人、困った人」
と見られがちだが、「困って
いる人」なのである。そう
いった方々は世代、生活形
態に関係なくおられ、今日
を明日へ必死で生きておら
れる。必要なのはニーズを
受け止め、支援できなかつ
た問題を我が事と捉え、課
題解決に向けて取り組むこ
とである。

行政に求められるのは、
包括的に課題解決に取り組
む上での障壁を取り除き、
積み重ねる成功事例、実績
評価である。制度のはさま
にあり、特に、福祉機関で
働く専門職の方々も最終的
な受皿、継続したフォロー
体制、具体的な課題解決に
苦慮している。

これまで対応が困難で
あったケースに対し、最終的
な受皿等も考慮し対応がで
きるようになっていく。



答 一定の成果が見られている。多機関協働の連携整備は重要であるので支援が途切れることのない体制づくりに努める。



問 アウトリーチを含め支援を受け止め、行政が主体となり地域の特性に応じた解決に導いていく取組が重要である。また、課題に対し、様々な立場の方が関わ

るため、時間と労力を必要とすることからフローはできるだけシンプルに見える化する。常に検証しながら進めていただきたいが、そこで、取組に対する市長の考えはどうか。

答 誰一人取り残されることなく生きがいをもって生活できるよう全力で取り組む。

公明党議員団



まつもと てつろう
松本 哲郎

小一の壁

問 保育所に預けていた時間よりも小学校の登校時間が遅く、働く親が子供の朝の居場所に困るなどの支障が出る「小一の壁」がある。

若竹学級を利用する保護者に、朝の居場所確保の必要性を調査してはどうか。

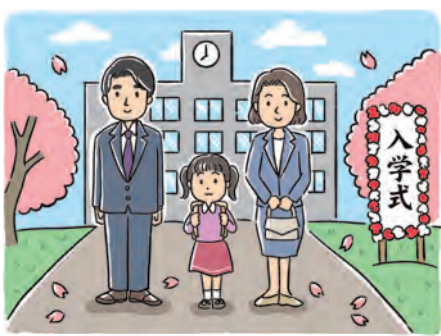
答 今後、平日朝の居場所確保についてアンケートを通してニーズ把握に努める。

問 教育委員会として現状

に対する認識はどうか。

答 共働き世帯や一人親世帯が増える中、本市においても課題の一つになると認識している。

問 本市も他の自治体の先進事例を参考に、新たな支援策を導入してはどうか。



答 アンケート結果を踏まえ必要と判断した場合、先進事例を参考にどのような取組ができるか考えていく。

建設業における諸問題

問 建設業の担い手を確保するための改正担い手3法が昨年全面施行された。建設業では労働者の減少と高齢化が進み、技術継承が困難になることが懸念されている。今回の改正で、働き方改革にも触れられている

が、どう指導していくのか。

答 週休2日制を達成した場合は、工事成績評定を加点するなどの取組を進めており、今後も働き方改革につながるよう取り組んでいく。

問 建設業における担い手不足を含む諸課題について、市長の所見はどうか。

答 地元建設業の皆様には、六十谷水管橋崩落事故の復旧の際も昼夜を問わずご尽力いただいた。制約の多い工事を限られた期間内で完成させるなど、重要な役割を果たして下さった。

重要な役割を将来にわたり果たせるよう、処遇改善や働き方改革、生産性向上に向けた取組を進めていく。

日本共産党議員団



さかくち たみこ
坂口 多美子

コスモパーク加太

問 検討中のデータセンター建設に対し、規制や環境アクセスの義務付けが必要

と考えるがどうか。

答 現時点で、環境アクセスメントの判断はできない。



みなみ はつた さちよ
南 畑 幸代

障害者の移動支援

問 ヘルパーの人材確保のためにも、18年間据え置いたままの報酬を早急に改定すべきと考えるがどうか。

答 実態に即した報酬に向けて都市を注視したい。

声の市議会だより (市議会だよりの音声版)

市議会の活動をより一層知っていただくために、声の市議会だより(市議会だよりの音声版)を作成しています。

ご希望の方は、議会事務局 秘書広報課
☎435-1120 までご連絡ください。

委員会審査の概要

総務委員会

当委員会に付託された承認案件1件及び議案8件について、慎重審査の結果、承認及び可決すべきものと議決されました。なお、令和8年度の主要事業については、次のとおりです。

奨学金返還支援の拡充64万6千円について。これは、市内企業に就職した場合の奨学金の返還助成制度について、対象業種等を拡充することで、更なる若年者層の定住促進や本市の産業を担う人材の確保を図るものです。

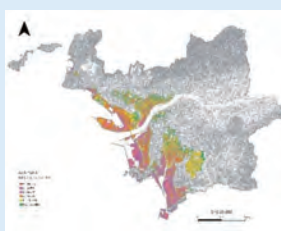
シテイプロモーションの推進1569万円について。これは、現在の移住プロモーションサイトから観光、食等の魅力全般を発信するサイトに改修するとともに、本市を舞台にしたショートドラマを制作し、サイトやSNSでの発信を通じて若年層の関心を喚起することで、更なるプロモーションを推進するものです。

財務会計システムの公金収納納デジタル化対応255万8千円について。これは、地方税統一QRコードに対応する仕組みを導入し、スマートフォン等からのキャッシュレス決済を可能とすることで、公金を納付する際の利便性を向上させるものです。※QRコードは、株

式会社デンソーウェブの登録商標です。

民間IT企業と連携したDX人材の確保604万6千円について。これは、民間IT企業とのDX連携協定に基づき、人材受入れを行うことで、ノウハウや知見を行政運営に生かすとともに、職員のDXスキルの向上にもつなげるものです。

新たな防災マップの作成2996万3千円について。これは、県が令和7年度に行った津波浸水想定区域の見直し等を踏まえた防災マップを作成することで、地域の災害リスクを周知するものです。



津波浸水想定区域図

なお、審査過程において、ふるさと納税を活用した教育機関等への支援などについて、執行部からそれぞれ報告があり、これらに対し、各委員から意見、指摘及び要望がありました。

録画中継



3月5日



3月9日

厚生委員会

当委員会に付託された議案24件について、慎重審査の結果、可決すべきものと議決されました。なお、令和8年度の主要事業については、次のとおりです。

妊婦の方への和歌山市版子育て応援手当の支給9584万5千円について。これは、妊婦の方へ3万円を給付することで物価高騰による負担を軽減し、安心して出産に臨める環境づくりを支援するものです。

子育て世帯への和歌山市版子育て応援手当の支給5億2258万3千円について。これは、国の物価高対応子育て応援手当2万円に加え、本市独自の支援策として、子供1人当たり1万円を上乗せして支給し、子育て世帯への支援をより一層充実させるものです。

園児等への給食費支援2億9309万7千円について。これは、3歳から5歳までの子供を育てる家庭に、給食費相当の一部として子供1人当たり3万6千円の補助を行うことで、物価高騰による経済的な負担の軽減を図るものです。

こども誰でも通園制度の本格実施1億4110万4千円について。これは、保育所等に通っていない0歳6か月から満3歳未満の子

供を対象に、月10時間の範囲内で就労要件に関わらず利用できるこども誰でも通園制度について、対象施設を拡充することで、子育て世帯への更なる支援につなげるものです。



RSウイルスワクチン接種の開始5654万7千円について。これは、生まれてくる乳児をRSウイルス感染症から守るため、妊娠28週から36週までの方を対象としたRSウイルスワクチンの定期予防接種を開始するものです。

なお、審査過程において、令和8年度和歌山市国民健康保険料の見直し、脱炭素先行地域の取組などについて、執行部からそれぞれ報告があり、これらに対し、各委員から意見、指摘及び要望がありました。

録画中継



3月6日



3月10日



委員会の模様をインターネットで配信しています！

市議会ホームページから録画中継がご覧いただけます。

経済文教委員会

当委員会に付託された議案10件について、慎重審査の結果、可決すべきものと議決されました。なお、令和8年度の主要事業については、次のとおりです。

藻場造成の推進 480万円について。これは、近年の海水温の上昇や海洋環境の変化により減少している藻場の造成を行うことで、沿岸漁業の再生を図るものです。

豊臣秀吉・秀長兄弟ゆかりの地スタンプリーカーンペーン 475万1千円について。これは、NHKの大河ドラマ「豊臣兄弟」の放映を契機として、市内の豊臣秀吉・秀長兄弟関連スポットの周遊を促すスタンプリーカーを実施し、また、市内宿泊施設及び市外のゆかりの自治体とも連携し、和歌山市への誘客を図るものです。



地域おこし協力隊の起業支援 100万円について。これは、人口減少、高齢化、空き家や耕作放棄地の増加等の課題を解決するため

活動している地域おこし協力隊員が、起業するに当たり必要な経費を補助することで、地域の活性化、魅力の向上を図るものです。

中学校給食費の無償化 5億1856万6千円について。これは、中学校全員給食の実施に合わせ、小学校と同様に中学校においても給食費の無償化を行い、誰もが安心安全な給食の提供を受けることができる環境を整えるものです。

児童・生徒用タブレット端末の更新 14億3346万5千円について。これは、GIGAスクール構想に基づき、令和2年度に導入した児童・生徒用のタブレット端末を更新することで、一人ひとりの理解度に合わせた学習や、友達と意見を交わす活動をよりスムーズに行える環境を整え、子供たちが自ら考え、深く学ぶ力を育むものです。

なお、審査過程において、宿泊税に関する調査研究状況等について、和歌山市学校部活動の地域展開等の在り方に関する方針(案)などについて、執行部からそれぞれ報告があり、これらに対し、各委員から意見、指摘及び要望がありました。

録画中継



3月6日



3月10日

建設企業委員会

当委員会に付託された議案33件について、慎重審査の結果、可決すべきものと議決されました。なお、令和8年度の主要事業については、次のとおりです。

和歌山市駅前南地区再開発の推進 1億6116万4千円について。これは、和歌山市駅前南地区の再開発事業を支援し、土地の合理的かつ健全な高度利用と商業、業務等の都市機能の集積による魅力向上を図ることで、まちなか居住の促進や交流人口の拡大による賑わい創出を目指すものです。

和歌山電鐵貴志川線の鉄道存続に向けた支援 1億3846万6千円について。これは、令和10年4月からの完全上下分離方式への移行を目指すし、和歌山電鐵株式会社が貴志川線の安全な運行を継続できるように、設備整備及び修繕に要する費用を県、紀の川市及び本市の3者で支援するものです。

特別重点調査等による下水道管路の改築 8億4675万円について。これは、下水道管路特別重点調査等の結果に基づき、口径2m以上かつ布設から30年以上経過などの下水道管路の集中的な改築を実施し、老朽化対策を推進するものです。



マイナ保険証を活用した救急業務の円滑化の推進 202万2千円について。これは、救急隊員が傷病者の健康保険証の利用登録をしたマイナンバーカード(マイナ保険証)を活用し、受診歴や薬剤情報などを素早く把握することで、救急業務の円滑化を図るものです。

ESCO事業による道路照明、公園照明等のLED化 5億4983万6千円について。これは、ESCO事業により民間事業者の資金、技術力等を活用し、市が管理する道路照明、公園照明等をLED化するすることで、消費電力・維持管理コストの削減、安全性の向上、環境負荷の低減を図るものです。

なお、審査過程において、旧和歌山市民会館活用事業などについて、執行部からそれぞれ報告があり、これらに対し、各委員から意見、指摘及び要望がありました。

録画中継



3月5日



3月9日



第3回!

親子DE議会!自由研究ツアー

夏休みの自由研究に!! 親子で楽しく市議会について学びませんか?

日時: 令和8年7月28日(火)
 [午前の部] 午前10時00分~11時40分
 [午後の部] 午後1時30分~3時10分

場所: 和歌山市議会(市役所3階)
 対象: 市内在住の小学4年生から6年生の児童と保護者
 定員: 20家族(午前の部10家族、午後の部10家族)
 内容: ・市議会〇×クイズ ・議会フロアスタンプラリー
 ・模擬投票 など

申込: 6月12日(金)までにWEB
 からお申し込みください。

申込はコチラから▶▶▶



※参加者には、わかすけ缶バッジと修了証をお渡します。※参加1家族に図書カード(1,000円分)をプレゼント!※当選発表は7月1日(水)で、当選者のみ通知します。※参加者には当日に限り、市役所周辺の市の施設(一部)について入場優待を実施します!

ご好評につき、今年は定員を10家族から20家族へ拡大! 午前・午後の2部制で開催します。

ようこそ!和歌山市議会へ

令和8年1月23日(金)、台湾児童音楽交流訪問団の皆様が、和歌山市議会へ表敬訪問にお越しくださいました。芝本議長はじめ市議会議員が歓迎の思いを込めてお迎えし、議場をご案内いたしました。

その後、和歌山城ホールにて、第2回日本和歌山国際音楽祭 学校交流コンサートが開催され、会場いっぱい温かな感動が広がりました。

このたびの交流が、児童の皆さんにとって世界へと視野を広げる有意義な経験となり、将来にわたって友好のきずなを育む礎となることを心より願っております。



市議会表敬訪問の様子

議員連盟

活動レポート

Vol.36

11月25日(火)から11月26日(水)にわたり、「紀の川大堰に関する和歌山市議会議員連盟」及び「和歌山環状北道路及び紀淡海峡大橋建設促進和歌山市議会議員連盟」が尾花市長とともに、金子国土交通大臣はじめ国土交通省、関係国会議員へ紀の川整備の推進と和歌山環状北道路の早期事業化について要望を行いました。



要望活動の様子



わかすけからのお知らせ

わかすけクイズ



わかすけの誕生日は、〇月〇日でしょうか?

ヒントはこちらの市議会HPをご覧ください。



第3弾!
 先着100名様
 お一人様1冊限り

クイズの正解者にメモ帳をプレゼントいたします!



期間:令和8年5月1日(金)~5月29日(金)
 ※開庁日の午前8時30分~午後5時15分まで
 引換え場所:和歌山市役所3階 議会事務局受付

和歌山市議会広報委員会

【委員長】林元 光広 【副委員長】木野 十三
 【委員】中庄谷 孝次郎 坂口 多美子 山路 恭世
 清末 博善 堀 登美子 辻本 太一
 志賀 弘明 赤松 良寛

市議会だよりを採点してください!

議会広報アンケート
 実施期間:
 令和8年7月31日(金)まで



現在
 ★3.4!!
 ★★★★★
 R8.2月時点



和歌山市議会ホームページ 和歌山市議会 検索
<http://www.city.wakayama.wakayama.jp/gikai/>

地球環境保護のために、再生紙及び植物油インキを使用しています。

